

ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む
にほんじん がいこくじん 日本人と外国人が、なかよく 仲良く助け合っ
たの せいかつ 楽しく生活していくことを願って、活動をつづ
つづ 続けています。

くろするろ〜ど

がつごう
2018/5月号

かいほうし
会報誌

〜サロン月間カレンダー5月〜

「桜まつり報告」

■文化交流活動

5月11日（金）午前10時30分〜12時
〜みんなでおしゃべり交流〜
「ミニワールドカフェ」（お茶代・100円）
申し込みは10日まで。

5月18日（金）午前10時30分〜12時
「ダンス教室」（15名・無料）

5月25日（金）午前10時30分〜12時
「生け花教室」（15名・花代500円）
申し込みは24日まで。

★対象はサロン学習者またはボランティアの方。

★申し込みはサロン事務局まで。

■ボランティア・スキルアップ講習会

【第1回目】

テーマ：「日本語教育と国語教育の違いを考える」

講師：柏崎雅世先生（サロン教授法研修講師）

対象：サロン・ボランティア（学習者も可）

日時：5月19日（土）午後2時〜4時

場所：サロン3階第2会議室（学習会の部屋）

参加費：無料

*詳しいことは「みんなの広場」の「スキルアップ講習会」をご覧ください。



1. ～フラダンスと民族舞踊を披露～

ぶんかこうりゅうぶかい 文化交流部会
ながたみつこ 永田光子

4月8日（日）文化交流部のダンスチームは桜まつりに参加しました。この一、二年小雨が降ったり止んだりの生憎のお天気でしたが、今年は晴れてよかったです。ただ、桜吹雪もとうに過ぎ、全くの葉桜でしたのが残念でした。やはり、満開の桜とは趣が違いますね。満開の桜の下で踊りたかった〜!!

私達ダンスチームは8人で（学習者5人、ボランティア3人）ハワイアンフラダンスを踊りました。フキラウ、ラブリーフラハンズ、モアナ、パーリーシェルの4曲をローナさん、ヴァレリーさんを中心に練習してきました。学習者5人のお国はフィリピン、シンガポール、ヴェトナム、インドネシア、中国と様々で、皆それぞれ仕事や家庭の事情で忙しく、なかなか全員集まれる日が少なかったのですが、それでも「桜まつり」という目標に向かって一緒に練習した日々は楽しかったです。府中公園は桜の花がなく淋しくもありましたが、ステージの上ではハワイアンのメンバーの他、ヌルビアさんが友達と3人でウィグルの色鮮やかな赤や黄色の民族衣装を着てお国の踊りを披露し、後ろには友達が大量参加してステージを更に華やかにしてくれました。司会はイランのゾヘレさんで、練習する時間も少ない中、自宅で一生懸命練習してきて見事にやり遂げました。とても嬉しかったです。今年も又、多くのサロンの皆様が応援に来て下さり、有難うございました。

2. ～サロンブース大盛況！～

きんようごご だいせいきょう
金曜午後ボランティア 安島文江

「第47回府中市民桜まつり」が4月7日、8日に開催されました。府中国際交流サロンとして、テントを張り、独自のブースをつくり参加しました。そして、5部会からお手伝いを募り、サロンの宣伝活動を幅広く行いました。

今年はクイズに答えてもらい、はがきにスタンプを押すという企画で、特にお子さんたちには大好評！！ その間、付き添いの方にサロンの説明をすることができました。なお、スタンプはボランティアの堤林さんに協力を頂きました。

一方、ステージではダンスチームによる華やかな踊りがくり広げられ大拍手！！ おおいに盛り上がりました。

二日間「桜まつり」に参加して、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

応援、お手伝いをしてくださった皆さま、たいへんありがとうございました。



世界の文化



「日本語学習発表会を体験して」

ちょうほうな ちゅうごく
張鳳納 (中国)

安島先生から「日本語学習発表会で発表しませんか」と言われ、初めは「嫌だ」「ダメだ」「来年、来年」と言っていたのですが、「大丈夫、大丈夫」と言われ、自信はありませんが、発表することにしました。

原稿を書き、そして読む練習をしました。みんなに自分の発音がわかってもらえるか心配でした。何度も何度も練習しました。

発表の日は、ドキドキでした。発表が終わって、気持ちが軽くなりました。発表会は楽しかったです。よかったです。

みなさんも、ぜひ参加しましょう。

ファツマ カラクシュ (トルコ)

私はサロンの先生と日本語を勉強していたが、私がほかに勉強しているCIFA (調布国際交流協会)の教師は日本語発表ができますか?と聞きました。このことの意味を知らなかったけど、サロンの私の先生はレッスンで話すことを教えてくれ、話すとおもしろいよと言いました。トルコ文化と日本の文化はとても似ています。しかし本当は違います。私は両国について話をするに少し興奮しました。

日本人はあまりトルコのことを良く知らないから間違ったことを言うのを恐れていました。私が書いた文を先生が毎週チェックしました。でもまた間違った文を手紙に書きました。そしてやっと文ができあがりました。私に話すことは難しくありません。他の国の言葉で話すことは別の経験です。

発表会の日、私はエキサイティングな最初の講演者だったので、もっと慎重にすべきでした。誰もが最初の話を慎重に聞いていますと思いました。もっと日本語を勉強したいと言いました。日本人は

とても親切で理解してくれますからすべてが大丈夫だった。

パーティも発表会の中で最も面白い部分だった。おいしい食べ物と良い人と話すことは大好きです。日本語発表会の後で心のこもった人とチャットするのはとても素敵でした。私たちに時間を与え、私たちを助けてくれた私の素晴らしい先生とすべてのボランティアの人、ありがとうございます。私の人生のうちで日本語発表会の日は美しい記憶として思い出すでしょう。

ヒン イン チョ (ミャンマー)

ミャンマーのヒン イン チョです。私は2018年3月10日にしたサロンの日本語学習発表会で発表しました。サロンで日本語を勉強している学生さん15人が発表して自分の国のことと他の面白いもののことのお話をしました。だから、私たちは色々な国の文化や綺麗なかんこうスポットを見て楽しかったです。外国語での発表はチャレンジングです。だから、発表の前に準備をしていたとき日本語の新しい言葉をたくさん勉強したり練習したりしました。私は自分の国のいいところをみんなに見せるのができたので嬉しかったです。私にはこの発表会は日本語で始めたので、初めはとても心配しました。でも発表の後で、私は楽しい経験を持って、日本語を話す自信ができたのでこの発表会は日本語を勉強している学生さんにとっても大切だと思います。でも、発表の時間は少し少ないので来年は発表の時間がもっと長ければいいと思います。

めずら おもしろ こうけい 「ベトナムの珍しい・面白い光景」

グエン・スワン・ティン (ベトナム)

4月中旬、ベトナムに出張で二年ぶりハノイに帰ってきました。一緒に出張したベトナムが初めての同僚の日本人は、外国人の立場で発見したベトナムのハノイの珍しい・面白い光景が幾つかありました。ハノイ市内で移動中、「あれ？走行中なのになぜバイクタクシーの運転手が片手でじっと携帯電話を持って見ているの？」と日本人の同僚に聞かれました。答えを探すのによく見てみたら、何か近年流行っていたGrabタクシーの運転手でした。Grabタクシーの運転手に理由を聞いてみたところ、Grabアプリを常にチェックしないとお客さんが注文したとしても自分が気づかなかつたら仕事にならない、とのことでした。あー、なるほどね。

夜道路を通行中、「ねえー、救急車が患者を運んでいるような気がするけど、なぜサイレン音が鳴らないの？」とまた日本人の同僚に聞かれました。そうですね。その光景はベトナム人にとってはよく見受けられるものなので、「どうして」とか「なぜ」とかそう言う疑問まで持たないと思います。根本的な理由がわからないですが、道が混んでいないので、わざわざサイレン音を鳴らさなくてもいいというドライバーさんの勝手な行動だという解説が最も相応しいでしょう。逆にラッシュ時間になると道で車やバイクがいっぱいそれらに救急車を優先する習慣がない為、患者を運んでいる救急車でも車やバイクに挟まれて動けないことが多いです。ベトナムは日本と同じように皆さんがしっかり交通ルール守るといいですね。では、今回のベトナムの紹介はこれで以上となります。

編集部注:Grabタクシーとは、配車アプリに対応するタクシーのことです。



わたし 私のふるさと ~2~

しぜん れきし いろど な す からすやま 「自然と歴史に彩られた那須烏山」

きんようごご ボランティア とうへいようこ
金曜午後ボランティア 藤平洋子

わたしのふるさととは栃木県那須烏山市興野というところ。那須烏山市には多摩川と同じくらいの那珂川という大きな川が流れています。私の育った家は那珂川の東側の岸の上にあります。子供のころは川で魚取りをして遊びました。那珂川にいる鮎はおいしい魚です。大雨や台風などで川の水が増えたときに、父や弟が「四手網」という網で取った鮎を塩焼きや甘露煮にして家族で食べました。那珂川の鮎は有名で「鮎最中」というお菓子を販売している菓子店もあります。

私の家の周辺は「馬場」とよばれ、「小口」という姓でした。家の近くに興野城という城跡があります。馬場は城で使う馬の世話をしていたところ、小口という姓は城の門という意味の虎口と同じと考えられています。つまり、私の先祖は城の門のところで、馬の世話をしていたのではないかと考えています。興野城の城主は屋島の合戦で海に浮かぶ船の扇を弓矢で射たという那須与一の子孫といわれる那須氏です。川の西側に那須氏の烏山城があります。興野城は1472年に烏山城の城主の弟が築いたといわれています。現在の城跡は雑木林ですが、城の堀であったと考えられる小川や城の一部の名前と考えられる地名もあります。子供のころは城跡やその近くで遊びました。写真は興野城の城跡の雑木林と城の堀だったと考えられている小川です。

藤平(トウヘイ)という姓もめずらしいでしょう。夫の姓ですが、栃木県の2か所にこの読み方をする家が数軒ずつあります。都賀町には藤平氏が城主だったといわれる1300年ごろにつくられたという神楽が岡城という城があります。城跡の横には1351年に藤平氏がつくったという神社もあります。この城跡も現在は雑木林ですが、城の土塁や堀が残っています。那須烏山市や都賀町の城跡は1300年から1500年ごろにつくられた、城の好きな方にはおすすめです。



きょうのじょうしるあと ぞうきばやし
興野城城跡の雑木林



きょうのじょう ぼり かんがえ
興野城の堀と考えられる小川



べん きょう かい ほう こく 勉強会報告

だい かい
~第89回~

わたし 「私はこんなふうをしています！」

にほんご まった はじ ひと おし かつ
—日本語が全く初めての人への教え方—

けんしゅうぶかい かよう ゆみ こ
研修部会 萱生由美子

がつか にち すい べんきょうかい あめ なか めい きんか
4月18日(水)の勉強会には、雨の中18名が参加しました。

今回は先ずボランティアさん達が、日本語が初めての学習者を急に教えることになった時、どんな物を教材として利用しているのかを聞きました。以下がその教材です。

- 写真やチラシを切り抜き、自分で作った写真集
- スマホのアプリを利用
- 絵を描く
- スーパーなどのチラシ
- ひらがなカード
- 紙製の時計、カレンダー、料理の本
- 地図 (100円ショップにあり)
- 絵カード (みんなの日本語)、図鑑

「日本語教授法研修Ⅱを終えて」

けんしゅうぶかい おおしまようこ
研修部会 大島洋子

- 『にほんご これだけ』の下敷き
 - 『文化初級Ⅰ』の「教室のことは」や「生活のことは」
 - サロンの教材から作った自分用の「虎の巻」
 - 身振り、手振り等実際の動作でやって見せる
- ほとんどの皆さんが、自己紹介、挨拶、お金の数え方、時間、曜日、日にち、12ヶ月の言い方や、身近な食べ物や道具、体の部位などの語彙を、絵や現物を見せて発音させることからスタートしています。

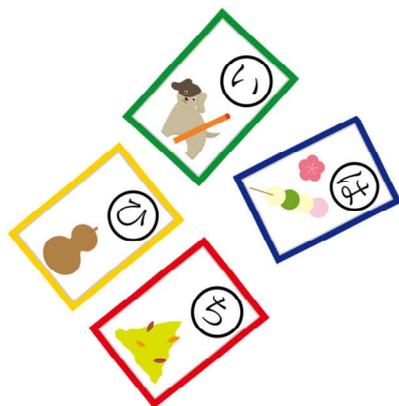
次に、どう進めるのかについての意見です。

- 同じ母国語を話す人に手伝ってもらった。
- 学習者のニーズを聞き出し、身近な語彙や数字の言い方を教えてから、ニーズに合った教材を選ぶ。
- 学習者に足りない面を補うようにしている。
- 毎回教えた内容について「振り返り」を実践しているが、これが自分の勉強になる。
- 日本語が初めての人には、余計なことは言わずに簡単な言葉で教える。

最後に大切なポイントです。

- 日本語が初めての学習者には、相手が分かる言葉だけを使って、やさしい言葉で教える《語彙コントロール》が必要。
- 発音の矯正は、スタート時から始めること。
- 非漢字圏の人への漢字指導は、最初はきちんと書き順を教える（漢字アプリにもあり）。慣れてきたら、細かい注意はしなくてもいいのでは。

※金曜午後部会では、日本語が初めての人への「教材セット」が用意されています。他の部会でも参考にして頂けたら良いと思います。



去る2月3月、日本語教授法研修Ⅱが行われました。参加者は29年度の研修Ⅰの受講者を中心に、24名でした。全8回のうち3回は、ボランティアの方々要望に応え、「国語教育と日本語教育の違い」「ニーズの把握の仕方や、適した教材選び」「実践で役立つ教案作りと模擬授業」といった実践的なテーマが新しく取り上げられました。

初回は『みんなの日本語初級Ⅰ』と小学校一年生の国語教科書のそれぞれ最初の部分について、使われている名詞、動詞、その他の語彙をリストアップ。また、動詞や形容詞がどのような形で提出されているか、文法形式などの扱いについて比較、検討し、それらの違いを具体的に知ることで、国語教育と外国語としての日本語教育の違いを理解しました。

最終回での模擬授業は、日本語が全く分からない外国人に教えるという設定で、4人6グループに分かれて取り組みました。発表に備えて事前に何度も集まり、教案や教材作りに励むグループもいくつか見受けられ、本番では先生役と生徒役に扮して、工夫を凝らした手作りの絵カードなどを用いての熱演が見られました。他のグループはそれを観察、気づきをコメントシートに記入、柏崎先生の講評をいただく、という1グループ16分の発表でしたが、研修終了後のアンケートでは受講者全員が、模擬授業を実際に体験することができて良かったと評価しています。

コメントシートにあった観点(状況・場面設定は適切か。語彙・文型のコントロール。指示は明確か。有効な教材か。発話を促す練習となっていたか。教師が話しすぎていないか。等々)は、これからの学習活動に生かされていくことでしょう。

皆さんよろしく◇学習者紹介

むらやま しおん
村山 詩音さん (フィリピン)



ゆめ 「夢はパイロットになること」

むらやましおんさんは、2017年10月マニラ市から、日本人の父親の住む日本にやってきました。

高校を卒業後、ITの勉強とパイロットの養成学校に通っていました。ビザの関係で、パイロットの免許を取る前に日本に来ましたが、日本語を勉強した後、日本でパイロットの養成学校に入り、パイロットになろうと思っています。子供のころ、タガログ語を勉強する前に英語を勉強したので、パイロットに必要な英語は堪能です。

趣味は水泳、歌を歌うこと、コンピューター・ゲームで遊ぶこと。食べ物は、お寿司、かつ丼が大好きという元気な19歳の若者です。

日本が大好きなので、日本に住むため、日本語の勉強を一生懸命していて、とても幸せだそうです。

少し「はにかみ屋」のところがあると、ご本人はおっしゃっていますが、将来パイロットとして世界を飛び回っている姿、機長の制服制帽がぴったり似合いそうな好青年です。(堤 林)



とう こう 投◇稿

さいきん どくしょ
「最近の読書」

げつよう ごご かわぐちてつや
月曜午後ボランティア 川口哲也

さいきん がくせいじだい いくど となく くり返し 襲ってくる「三島由紀夫が読みたくなる病」に、また罹ってしまった。

この不思議な「病」は、どういうわけかインフルエンザと同様、毎回その「病」の特徴が微妙に違う。今回襲ってきたものは「三島の戯曲が読みたくなる病」である。

そして、何故、これに襲われたのか、少々、思い当たる節があった。この数年、ギリシア悲劇、特にソポクレスの作品、『オイディプス王』や『アンティゴネー』に大いに魅了されていて、それが今回の三島の「病」から身を守る免疫力を低下させたに違いないのだ。

そんなわけで、学生時代には勢いにまかせて、ガンガン読みまくっていた三島の古い文庫本の数々から戯曲作品だけをわざわざ、屋根裏部屋の段ボール箱から引っこ抜いて、読み始めた。

そして、そのなかの一つ『サド侯爵夫人』を読んだ時のことである。ちなみに、この作品は本家のフランスで高く評価されている戯曲として有名なのだが、この戯曲の主人公であるサド侯爵夫人の母親が、娘のサド侯爵夫人を批難する、ある台詞に、ひっかかった。

それは、「お前は傲慢と己惚れのおかげで、身を過まろうとしているんだ。」(下線は筆者)という台詞の下線箇所であった。

この箇所を目にした瞬間、「ん？ん？これは何だ？身を？ひょっとして、あやまる、か？文脈からして」となり、そうとは確信できなかったため、まず、すぐに漢和辞典(漢字源)を引いてみた。

すると、「過」の項に、動詞として「あやまつ」、名詞として「あやまち」とあるのを見、「あやまつ」は古語的な表現かとも思われたが、とにかく、この箇所が、やはり「みをあやまろう」というように読め

ることを知った。

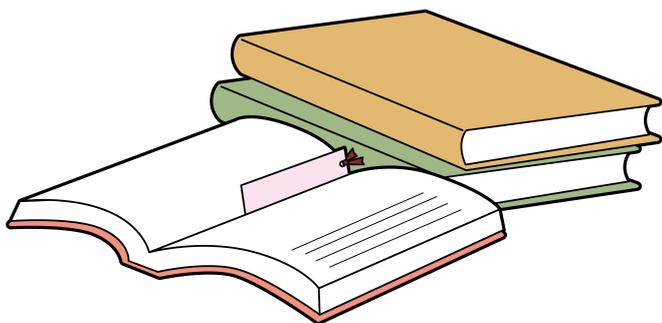
だが、この「みをあやまろう」及び「みをあやまる」という言葉は、「間違った人生を歩んで（しまうだろう）、（しまう）」という意味である事は、知っていたし、実際にそのように使ったこともあるのだが、漢字表記は「身を誤る」だとばかり思っていた。

だから、念のため、更に国語辞典で調べてみた。すると、動詞の「過つ（あやまつ）」の項には、「やりそこなう」、「まちがう」とあり、例文として「道（＝方針）を過つ」とあった。

また、動詞の「誤る（あやまる）」の項には、「正しい判断、見通し、人選、道、人生－をあやまる」とあった。

ということは、「過つ」も「誤る」も「身を」につく場合は、言葉としては同じ意味になるのだが、「身をあやまる」を「身を誤る」ではなくて、この三島のように「身を過る」と表現して、はたして良いのかどうか、ここまででは判断がつかない。しかし、どちらでも良いということなのだろうと、とりあえず独り合点した。何故なら、三島は大正生まれの文人だし、言葉選びの芸術家なのだから、古語だろうが何だろうが、彼のセンスがこの語を選んだのだからと。

そして、学生時代には絶対に読み飛ばしていた、こんな箇所まで、最近では、一語一句を丁寧に読み進み、だから本を読む速度が減法遅くなってしまったのは、絶対にサロンで日本語学習支援を行っているせいだと思わざるを得ないと、夜中に独り言ちた。ん？まてよ、これも古語的表現か？



わたし 私の☆つづがやき

「学習者も、ああ勘違い！」

誤用を恐れずに、覚えたことばをどんどん使ってみるといのは、どの言語においても上達の近道のひとつです。一緒に学習していたベトナムのTくんは、失敗談としてこんな面白い（失礼！）勘違いを教えてくださいました。

Tくん：「日本は秋になるとどうしてみんな、子どもを愛するんですか？」

相手：「…どういうこと？」

Tくん：「日本人は、こどもがえ、こどもがえとよく言ってますよ。」

相手：「ああ、それは、ころもがえ（衣替え）のことだね。」

★ ★ ★ ★

Tくん：「このあいだ、みもじ狩りに行ってきました。」

相手：「…ひょっとして、もみじがりのこと？」

最初のケースは、「こどもがえ」も、「ころもがえ」も、子音に続く母音がすべて同じことから生じる聞き違いですね。次は、秋の紅葉を楽しむことを表現することばの一つとして、「紅葉狩り」ということを覚え、さっそく使ってみたのでしょう。

かつて、カンボジアからの難民を乗せた小舟が和歌山沖に漂着したとき、NHKテレビのニュースキャスターが、

「今朝、和歌山沖にナンボジアのかんみんを乗せた船が漂着しました。」

と報道し、あとで、「先ほどのニュースは、カンボジアの難民の間違いでした」と訂正するという珍事がありました。

私ごとですが、この4月から自分が行く『若竹幼稚園』を、ずっと、「わたかけようちえん」と言っていた孫が、入園してやっと「わかたけようちえん」と言えるようになりました。同じ子音や母音が並ぶとこのような勘違いがおきるのは、外国人学習者だけでなく、日本語を母語とする人にも生じる現象なのです。（編集部・酔猪）

「サロンの新会長が決まる」

3年間にわたりサロンの会長を務められた野川豊子さんが3月に退任されました。「困ったことはない？」と、いつも学習者の視点に立ち、持ち前の情の厚さと行動力で彼らを支えてきました。これからは生活情報支援部会での新たなご活躍が期待されます。3年間お疲れさまでした。

野川さんの退任に伴い、4月11日（水）に開催された今年度第1回目の実行委員会において、府中国際交流サロンの新会長に金曜午後のボランティアの鷹見正昭さんが選出されました。理論派の鷹見さんのこと、サロンに新風が吹き込まれることが期待されます。一部の部会でも新しい部会長、副部会長が選出されましたので、サロンの新体制一覧を次号6月号でご紹介いたします。（編集部）

「ボランティア・スキルアップ講習会」

今年は、ボランティア養成教授法研修会Ⅰ・Ⅱを一旦お休みすることになりました。それに代り、今年度は現ボランティアを対象とした「スキルアップ講習会」を年、5回実施することになりました。

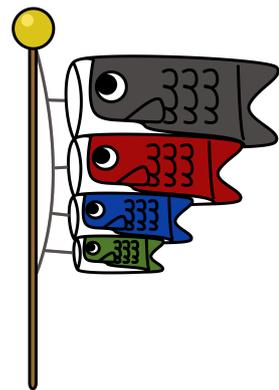
昨年実施したアンケートの結果に基づき、ボランティアの皆さまから要望が多かった項目を5つのテーマ（「国語教育と日本語教育の違いについて」「学習者のニーズ把握とそれに合った教材選び」「日本語が全く分からない学習者への対応の仕方」「助詞について」「外国人を取り巻く環境（入管法・外国人登録等）について」）に分けて順次取り上げていきます。2回目は6月16日（土）午後2時から、「学習者のニーズ把握とニーズに合った教材選び」です。詳しい内容は6月号でご紹介いたします。いずれも、日頃の日本語指導活動に必須の課題ですので、是非ご参加下さるようお願いいたします。

（研修部会）

『くろすろ一ど』は昨年10月で創刊20年を迎えました。その大半の期間の編集に携わって『くろすろ一ど』の礎を築いてくださり、学習者の藤田タミーさんに、「相棒」と言わしめた名編集コンビ、篠塚さんと坂倉さんが、今年の3月をもって会報部会を勇退されました。あまつさえ、3年間、持ち前の美的センスで誌面のレイアウトを華やいだものにしてくださった高柳さんも、新たなことに取り組むため、一旦お休みすることになりました。

篠塚さん、坂倉さん、多岐ににわたりご指導をいただきありがとうございました。高柳さん、いつも斬新なアイデアで編集部を刺激していただきありがとうございました。

「いろいろな文化が交差する」、という誌名のとおり、学習者とボランティアの方々がますます活発に交流できる場として『くろすろ一ど』をみなさまにお届けできるよう、これからも和田、堤林、岩城でがんばっていく所存です。今後ともどうぞよろしく願います。（和田）



【編集】会報部会/和田、堤林、岩城、増田

【事務局】電話：042-352-4178

E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>